

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 5月 20日(金)

その1 通算 228号

◇ 大きな希望を

本校の新たなシンボル【希望の庭】が完成した。※場所：児童昇降口前ピロティー



ぽつんと立つ少女像。「ぽつん」と見えるのは、少女像の周りの環境にあらう。ヒラドツツジに囲まれた様は一変。像が生氣を帯びたように見えるから不思議だ。

この少女像。記念誌によれば、【希望の塔】という。

昭和62年4月 移転・新築記念式典 ※出典:100周年記念誌「緑陰」



この【希望の塔】、1mほどの台座の上に立つブロンズ製の少女像は、左手に花を持ち、視線を空に向けて微笑んで南向きに立つ。

登校してくる児童は、管理棟を左に折れると、ちょうどこの少女像と対面する形になるわけだ。つまり、少女像を見ながら心を整え、希望の思いを高めて昇降口に向かう。

下校時、今度は少女像に見送られる形。児童は背中から希望を高める後押しをもらって帰路につく。

最高・最適の場に建つ【希望の塔】なのである。

さらに聞くとところによると、塔の制作は地元・米河内町出身の近藤^{いづ}鎰郎氏によるもので、【希望の塔】は地元の愛と希望がいっぱいにつまっているといってもよい。



今回、UFJ緑化基金に応募したところ、計画が認められて支援を受けることができ、本事業に至ったわけだ。造園に関わる工事関係でも、地元の柴中造園さんには、格別の取り計らいで対応いただいた。中根康有さんには感謝しかない。



緑化美化委員と各学年代表児童で30本程のヒラドツツジの苗木を植樹した後、柴中造園の3名の職人さんの手で丁寧に定植され、整えていただいた。表面の写真を見ていただければ分かるが、まさに「園」である。

そこで今回、【希望の塔】が建つこの一角を【希望の庭】と命名した。

これまで、あまり児童に認識されていなかった【希望の塔】であるが、整備を機に塔の建つ【希望の庭】を児童の手で大切に続け、己の希望、友を応援する希望、学級や学校の希望、そして家庭や地区の希望をもち続けてくれたらと願う。